

龍谷大学世界仏教文化研究センター
国際シンポジウム

シンポジウム名	チベットの宗教文化と梵文写本研究
開催日時	2017年12月2日(土) 9:30~16:30
場所	龍谷大学 大宮学舎西翼 253教室
シンポジスト	岡本健資(龍谷大学准教授)、岩尾一史(龍谷大学准教授)、万徳カール(ワンデカル)(中国蔵学研究中心・社会経済研究所副研究員)、孟秋麗(中国蔵学研究中心・歴史研究所副研究員)、馮智(中国蔵学研究中心・歴史研究所副所長)、鄭堆(ダムドゥル)(中国蔵学研究中心・センター長)、高穎(中国蔵学研究中心・宗教研究所助理研究員)、間中充(龍谷大学大学院研究生)、李学竹(中国蔵学研究中心・研究員)、スダン・シャキヤ(種智院大学准教授)、加納和雄(駒澤大学講師)
司会	能仁正顕(世界仏教文化研究センター長)、若原雄昭(龍谷大学文学部教授)
ディスカッション コーディネーター	武内紹人(神戸市外国語大学名誉教授)、桂紹隆(龍谷大学研究フェロー・広島大学名誉教授)
挨拶	入澤崇(龍谷大学学長)、若原雄昭(龍谷大学教授)
主催	龍谷大学世界仏教文化研究センター、仏教文化研究所常設研究「仏教写本の総合的研究」班、共同研究「日本におけるチベット仏教文化の研究」班
共催	中国蔵学研究中心、龍谷学会
協力	龍谷大学アジア仏教文化研究センター
参加人数	午前の部 35人、午後の部 40人

【シンポジウム趣旨】

龍谷大学と中国蔵学研究中心は、2011年に学術交流の促進に関する協定を結び、チベットおよび仏教の研究に関して相互の交流を重ね、今回が第3回目になります。

チベットに伝わる梵文写本の研究は現在どのような状況にあるのでしょうか。また歴史や宗教・文化の研究はどうでしょうか。2016年には、龍谷大学が研究に協力してきた『五百頌般若経』梵文写本の校訂テキストが、中国蔵学研究中心とオーストリア科学アカデミーにより出版されました。これを機会に、日本と中国のチベット学の現状を総合的に把握し、研究者の意見交換を通して、今後の国際的な研究のあり方について検討します。（ポスター「開催趣旨」より）

【シンポジウムの概要】

■ 午前の部：チベットの宗教文化

① 岡本健資（龍谷大学准教授）：多田等観請来「釈迦牟尼世尊絵伝」に描かれる「ムクターラターの物語」

ターラナータ作『尊師釈迦王の百行の作画録（*Ston pa Śākya'i dbang po'i mdzad pa brgya pa'i bris yig*）』内に作画の指示がなされているにも関わらず、「釈尊絵伝」において描かれない箇所を、Quintman と Schaeffer によって報告された壁画の中に見出すことを試みる発表が行われた。

② 岩尾一史（龍谷大学准教授）：古代チベット支配下の敦煌とチベットの仏教

チベット本土で行われた仏教が敦煌へどの程度流入していたのかを、受戒の儀式に関わると考えられるチベット語文書を分析することによって考察する発表がなされた。

③ 万徳カ爾（ワンデカル）（中国蔵学研究中心・社会経済研究所副研究員）：チベット族の牧民地区にある”bsang”祭り儀式について

「bsang」（中国語で「煨桑」）というチベット族特有の伝統儀礼について、その起源の諸説、特にボン教・仏教との関わりおよび歴代活仏による関連記述などの歴史的背景を述べた上で、実施される時間や場所、作法などが紹介された。

④ 孟秋麗（中国蔵学研究中心・歴史研究所副研究員）：清代における雍和の金瓶抽籤について

金瓶掣籤という活仏の転生者を決める制度が、北京にある清代の皇家寺院雍和宮において行われた経緯および作法、そして雍和宮において金瓶掣籤を通して認定された活仏の関連事情、雍和宮における金瓶掣籤の歴史的役割などが紹介された。

⑤ 馮智（中国蔵学研究中心・歴史研究所副所長）：五世パンチェンラマ伝の翻訳とその資料価値について

パンチェンラマ五世の自伝にパンチェンラマ六世の加筆を加えて成立した『パンチェン五世伝』について、その基本情報およびそこ

に記された重大歴史事件を紹介した上で、当書物が歴史研究などの面における重要性が紹介された。

⑥ 質疑応答・ディスカッション：武内紹人（神戸市外国語大学名誉教授）

武内紹人氏がコーディネーターとなり、午前の部の総括及びディスカッションが行われた。また武内氏より、10世紀頃、チベット支配下の敦煌では、チベット仏教が非常に盛んであったことが最近わかってきたことなどが補足として述べられた。

■ 午後の部：梵文写本と仏教思想

⑦ 鄭堆（ダムドゥル）（中国蔵学研究中心・センター長）：『宝雲経』について

新発見のチベット語『宝雲経』が紹介され、『宝雲経』という早期インド経典がチベット仏教史上における影響を語り、新伝本と既有諸伝本との初歩的対照結果を提示し、今後の『宝雲経』研究を展望された。

⑧ 高穎（中国蔵学研究中心・宗教研究所助理研究員）：『菩提道次第広論』における菩提心観について

チベット仏教の最も重要な人物であるツォンカパ大師がその著作の『菩提道次第広論』において述べた「菩提心」について、特に「菩提心」の重要性およびその発生、修持のしかたなどがまとめて紹介された。

⑨ 間中充（龍谷大学大学院研究生）：『大乘莊嚴経論』ゴル寺旧蔵貝葉について

本発表では、ゴル寺旧蔵貝葉を用いた『大乘莊嚴経論』のテキスト校訂を二箇所ほど抜粋して紹介が行われた。また、従来の校訂本や写本における読みや欠損部分について、いくつかの点で訂正できることが指摘された。

⑩ 李学竹（中国蔵学研究中心・研究員）：CTRRCに所蔵の Catuhstotravivarana とその他の梵文写本について

2004年に中国蔵学中心とオーストリアアカデミーアジア文化思想史研究所による Catuhstotravivarana 写本の研究が始まった。その後13年間、両機関は多大な成果を挙げてきた。本発表では、その研究の最新動向が報告された。

⑪ スダン・シャキヤ（種智院大学准教授）：ネパール現存のデーヴァナーガリー文字音写のチベット語写本についての一考察

本発表ではネパール新出の写本で特にネパール現存のデーヴァナーガリー文字音写のチベット語写本に焦点を当て、その特徴を明らかにし、仏教研究における位置付けについて考察がなされた。

⑫ 加納和雄（駒澤大学講師）：梵文で伝存するアバヤーカラグプタの著作

インド東部に位置する大寺院ヴィクラマシーラでその学問的伝統を牽引し、顕密双修の徒であったアバヤーカラグプタが残した著作一覧、著作のスタイルなどが紹介され、*Munimatālamkara* と *Āmnāyamañjarī* の梵文校訂テキストの制定の重要性が述べられた。

⑬ 質疑応答・ディスカッション：桂紹隆（龍谷大学研究フェロー・広島大学名誉教授）

桂紹隆氏によって、午後の部の発表の総括がなされ、その後ディスカッションが行われた。最後に桂氏より、午後の部の発表は、写本の収集、整理・同定、校訂テキストの制定、内容分析、思想史の再構築、歴史学・人類学への展開の可能性を示す大変有益なものであったことが述べられた。

【文責】 龍谷大学世界仏教文化研究センター 唐澤太輔、李曼寧